

1. 実施内容

活動名	「毎日学校に行きたくなる」通学路ガーデン化プロジェクト
主催者	千代田区地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター) 坂口次郎、加藤由佳、小林加乃
実施場所(エリア)	住所:千代田区富士見 1-10-3 千代田区立富士見小学校及び北側隣接通学路(特別区道千第 268 号) 図 実施場所
活動の目的	① 通学路を子どもたち中心の安心安全で魅力ある空間へ 富士見小学校及び当該地区に通う子供たちが通学路を安心安全にかつ自分たちの居場所として感じられるような魅力ある空間の実証実験を行う。 ② 地域が参加し学校との新しい関係づくり ①への取り組みにあたり、周辺地域が関わることにより、地域と学校の新しい関係をつくっていく。 ③ 今後の通学路活用に向けて合意形成を図るためのアンケート調査 富士見地区の通学路を子供たちのウォークブルな空間としていくため、地域、保護者等の意見を集め、次へのステップへつなげる。
地域が抱える課題	通学時の歩道の混雑 ・ 富士見地区は富士見小学校だけでなく、九段中等(中、高)、暁星学園(中、高)、白百合学園(小、中、高)、こども園等、学校関連施設が多く立地しており、文教地区的側面を有している。朝の通学時間帯は公立私立を問わず幼児から高校生まで多くの子供たちが集中的に通学し、特に雨の日などは傘により歩道が混雑しすれ違い等が困難な状況となっている。 ・ 通学路が必ずしも子どもたち中心の安心安全で魅力ある空間になっていない面が伺える。

活動概要	学習発表会をきっかけに通学路空間等を活用した地域交流の場づくり 日時:11月30日(土)【A】7:30~8:30【B】13:30~16:00 ① 子どもと地域の交流の場づくり ・ 地域の方々からのメッセージを印刷した応援フラッグ(32本)を学校前歩道沿いに設置し学習発表会を盛り上げる【A】 ・ 学校入口広場でのオープンワークショップ【B】 a. ロストフラワーを活用したしおりづくり(協賛会社) b. クリスマス用の寄せ植えプランターづくり(協賛団体) c. クリスマスツリー飾り ② 通学路のウォーカブル空間づくり【B】 ・ 通学路を落書き広場へ ・ 通学路沿い学校敷地(ポケットスペース)を活用した芝生広場の設置とそこでの手形アートづくり ③ 通学路空間活用に関するアンケート調査【B】 ・ 通学路空間活用(今回の取組み)に関するアンケート ・ 学校前面道路(早稲田通り)活用に関するアンケート
実施体制	①計画・実施 富士見小学校地域コーディネーター ②協力 ・ 周辺6町会(応援メッセージ等) ・ 日産緑化株式会社(材料、資材等) ・ 富士見小学校(手形アート、保護者連絡周知等) ・ 富士見小学校 PTA、おやじの会(準備、警備、広報等) ・ 地域のボランティア(ワークショップ運営等) ③対外調整 富士見小学校地域コーディネーター ④協賛 ・ 大和ハウス工業株式会社(しおりづくりワークショップ) ・ 花咲かじいさん(クリスマス用寄せ植えワークショップ)

2. 活動内容

活動の 進め方	企画 段階	【6月 28 日:区との打ち合わせ】 ・区との企画内容打合せ 【7月1日:小学校との打合せ】 ・小学校との企画内容打合せ 【7月中旬:関連町会との打合せ】 ・地元関連町会長との打合せ 【7月下旬:協賛企業との打合せ】 ・協賛企業との打合せ	
	準備 段階	【8月1日:警察協議(初回)】 ・企画内容の説明及び道路使用に関する協議 【7月中旬～10月上旬:交通量調査】 ・平日、土曜日通学時間帯の交通量調査、通り抜け車両調査(早稲田通り) 【10月19日:町会打合せ】 ・見直し企画に関する町会長説明 【10月21日:警察協議(最終)】 ・見直し企画に関する道路使用協議 【10月下旬:応援メッセージ収集及び資材調達開始】 ・関連各町会等へ応援メッセージ募集依頼	
	実施 段階	【11月 8 日:協賛団体との打合せ】 ・見直し企画に関する内容説明及び実施内容打合せ 【11月上旬:近隣地権者調整及びビラ配布】 ・道路使用に関する近隣地権者説明及び交通規制等に関する近隣へのビラ配布 【11月中～下旬:小学校から案内・周知】 ・小学校から保護者へポスター配信(中旬)、児童向け案内動画配信(下旬)	
広報活動の内容			
		実施した広報の種類	広報のターゲット層
		富士見小学校保護者へのイベント内容周知及びポスター送信	小学校保護者
		富士見小児童へのイベント紹介動画配信	小学校児童
		町会の掲示版へのポスターの掲示	町会員及びお住いの方々
		小学校 PTA、おやじの会への周知	関連保護者

3. 実施状況

地域からのメッセージを入れた応援フラッグ 	通学路を活用した落書き広場 
通学路と一体となった芝生広場(学校敷地) 	協賛企業によるしおりづくりワークショップ 
クリスマスツリー飾りづくりワークショップ 	通学路活用に関するアンケートボード(子供用) 

4. 実施の効果

効果計測の概要

○ 以下に示す調査を実施した。

種別		調査日時	概要
歩行者通行量調査		【実験日】11/30(土)13～16 時 【通常日】12/7(土)13～16 時	歩行者の通行量を現地で計測
アクティビティ調査		【実験日】11/30(土)13～16 時 【通常日】12/7(土)13～16 時	実験参加者の滞在時間を現地で計測
アンケート調査※	子ども向け	【実験日】11/30(土)13～16 時	パネルを設置し、該当するものにシールを貼ることで回答をする
	大人向け	【実験日】11/30(土)13～16 時	実験エリアに会場した保護者を対象に調査票に基づく聞き取り調査を実施

※アンケート調査において、子ども向けのものは【子ども調査】、大人向けのものは【大人調査】と記載する。

○ 上記の調査のほか、実験の事後評価や富士見地区および早稲田通りの通学路空間に対する web アンケートを、学校アプリを通じて、富士見小学校の保護者を対象に実施。(12/16(月)配信・12 月末回答期限)。

取組にどの程度の人が参加したか

■実験エリアにおける通行量および活動の変化

○ 実験コンテンツの展開場所であった実験実施の通りの東側(調査地点 A)は、非実験日と比べて4倍近く増加。

○ 滞在者の活動を見ると、非実験日においては活動が確認されなかったが、実験日においては様々な活動が創出された。

地点	調査日	小学生	小学生以外	合計
A	実験日	132人	221人	353人
	通常日	2人	89人	91人
B	実験日	16人	38人	54人
	通常日	4人	66人	70人

図 実験時における活動別の総活動時間

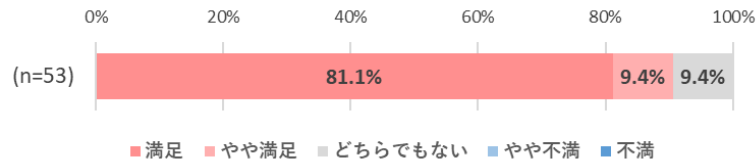
©Open StreetMap contributors

図 実験時と通常時の歩行者通行量

取組の評価はどうであったか

■実験全体の満足度

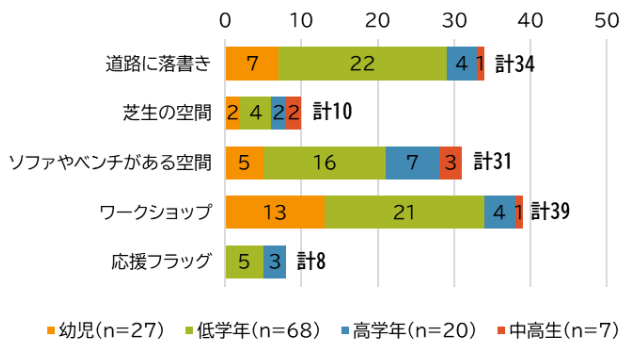
- 9割以上の人々が満足、やや満足と回答しており、やや満足、不満を回答する人は見られなかった。



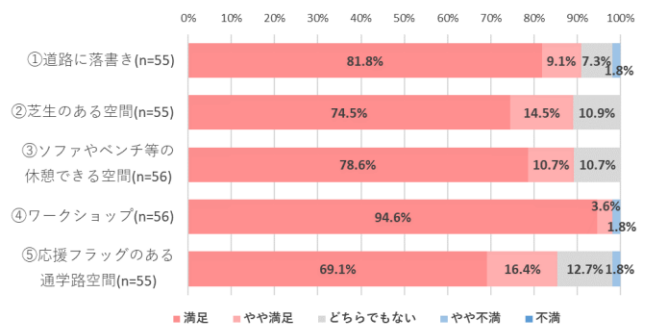
図【大人調査】実験全体に対する満足度

■コンテンツ別の満足度

- 子ども調査では、楽しかったものとして、ワークショップ、道路に落書き、ソファやベンチがある空間が多く選択された。
- 大人調査では、全てのコンテンツにおいて、おおよそ9割以上が満足、やや満足と回答している。



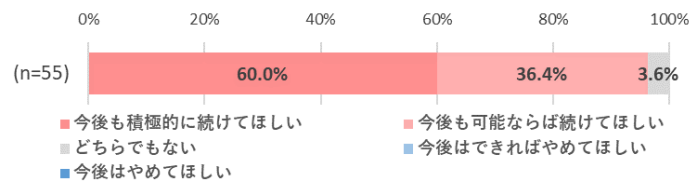
図【子ども調査】どれが楽しかったか(複数選択)



図【大人調査】コンテンツ別の満足度

■取組の継続意向

- 9割近い人が積極的に続けてほしい、可能ならば続けてほしいと回答しており、できればやめてほしい、やめてほしいと回答する人は見られなかった。



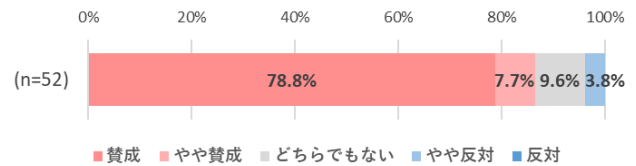
図【大人調査】取組の継続意向

楽しい通学空間に対する意向はどのようなものであるか

<早稲田通りに対する意向>

■通学路を安全で快適な空間にすることへの意向

- 早稲田通りを安全で快適な空間とすることに対して、9 割近い人が賛成、やや賛成と回答している。



図【大人調査】早稲田通りを安全で快適な空間とすることに対する意見

■どのような通学空間としたいか

- 大人調査では、いずれの選択肢においても、概ね 6 割以上が賛成、やや賛成と回答をしており、最も多いものは、広くて安全で通りやすい通学路でありほぼ全ての人が賛成、やや賛成と回答をしている。

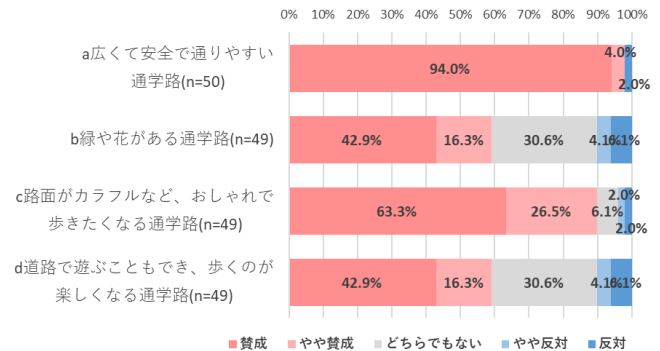
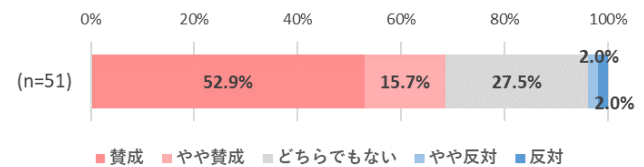
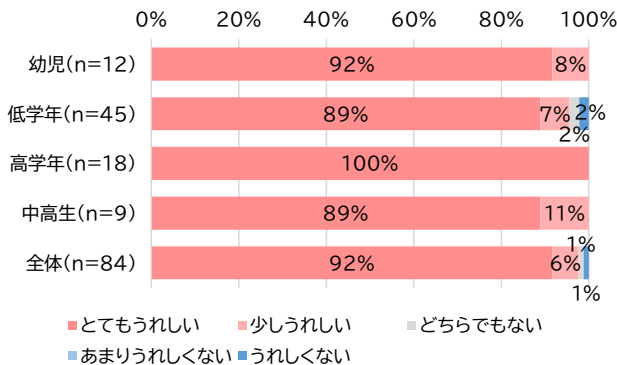


図 早稲田通りをどのような通学空間としたいか
※早稲田通りを安全で快適な空間とすることに対する意見で、賛成、やや賛成と回答した人のみに尋ねた。

■早稲田通りの車道を歩行者専用化することに対する意見

- 子ども調査では、全ての学年で、ほぼ全ての人がとてもうれしい、少しうれしいと回答をしている。
- 大人調査では、7 割近い人が賛成、やや賛成と回答をしている。
- 一方で自由意見では、交通規制の分かりにくさに伴う安全性の確保、交通に及ぼす影響（自動車の利便性の低下・自転車の取り扱い等）、合意形成などに関する懸念点が挙げられた。



図【大人調査】早稲田通りを安全で快適な通学路空間とするために、通学時間帯において、車道を歩行者専用道路化することに対する意見

図【子ども調査】早稲田通りの車道を歩けるようになるとうれしいか

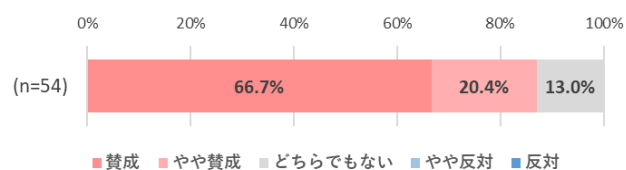
表【大人調査】通学の時間帯において早稲田通りの車道を歩行者専用化することに対する懸念点

分類	内容 (件数)
安全性 (9 件)	交通規制がより複雑になることに伴う安全性の確保 (4 件)
	規制時間帯以外に子どもが間違えて歩いてしまうこと (3 件)
	歩行者専用化の周知徹底 (2 件)
交通に及ぼす影響 (6 件)	自動車の利便性の低下 (3 件)、自転車の扱い (2 件)、自動車の迂回路の設定 (1 件)
合意形成 (2 件)	地域との合意形成 (1 件)、自動車利用者との合意形成 (1 件)
その他 (5 件)	歩行者専用化に賛成 (3 件)、実現は難しいと思う (2 件)
総計 (22 件)	

<富士見地区全体に対する意向>

■通学路を楽しくすることへの意向

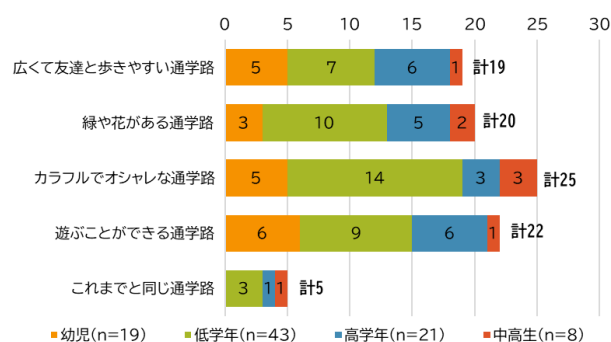
- 富士見地区全体の通学路を安全で快適な空間とすることに対して、9 割近い人が賛成、やや賛成と回答しており、やや反対、反対と回答する人は見られなかった。



図【大人調査】富士見地区全体の通学路を安全で快適な空間とすることに対する意見

■どのような通学空間としたいか

- 子ども調査では、各年齢層ともに同じような傾向であり、最も多いものは、カラフルでオシャレな通学路であり、最も少ないものは、これまでと同じ通学路である。



図【子ども調査】どのような通学路がうれしいか(複数選択)

■早稲田通り以外で具体的にどの通りを楽しくしたいか

- 複数の人から選択がされた道路を右図に示す(赤線部分)。実験実施の道路のほか、日本歯科大学北側の交差点から大神宮通りまでの道路、富士見小学校の西側の道路が挙げられている。
- 自由意見では、富士見地区全体という意見が確認できた。



©Open StreetMap contributors

図【大人調査】早稲田通り以外で具体的にどの通りを楽しくしたいか(地図上で複数選択)

5. 実施上の課題

活動を進める 上での課題	企画 段階	①企画段階からの地域の巻き込み 企画段階から地域を巻き込むことができればより速やかな合意形成を図れた ものと思われる。
	準備 段階	①道路使用に関する警察協議 採択された当初案は早稲田通りの通学時間帯における歩行者天国化だったが 警察協議が難航し、協議期間に3ヶ月要したにもかかわらず、車の迂回路等の 課題から今回は実現できなかった。そのため、当初案の見直しが必要となった。 ②地域との合意形成 総論的には賛成だが各論ではそうではないこともあり、現状からの変化に戸惑 う声もあった。丁寧な説明や今回の見直し案のようなスモールステップの繰り 返しが必要と思われる。 ③効果的な広報等の実施 地域コーディネーターは組織的な HP を持っていないため、広報や内容周知に おいて個人的な動きがベースとなった。一方で、学校にご協力いただき保護者 や子供たちへの周知は学校からの案内網を活用させていただいた。
	実施 段階	①ボランティア等の協力者の確保 各ワークショップの運営や特に子供たちの安全確保のため 30 人規模のボラン ティアが必要となった。継続的な取り組みに向けて情報共有等の連携が必要。

6. 収支状況

実際の収支状況	【収入概要:50 万円】※千代田区からの活動支援金 【支出概要:50 万円】 ・ 備品・什器等の購入費:35 万円 ・ 消耗品購入費:10 万円 ・ 広告、印刷費:5 万円
---------	--

7. 今後の活動の展望

今後取り組んで いきたいこと	実証実験を通して、一定の成果を得るとともに課題も抽出できた。今後も子どもの通学環境、地域活性化向上を目指し、一步一步実証実験等を重ねながら課題を克服していきたい。 ①“毎日学校に行きたくなる”通学環境づくり 地域の幹線道路となる早稲田通りの通学時間帯の歩行者天国化を目指し、実証実験や地域との話し合いを継続していきたい。 ②地域課題に関わる子供たちの教育効果 今後の取組みにあたっては、地域課題の解決に子供たちが関与していくことで学校内では経験できない教育的効果を得ていきたい。 ③地域と学校との新しい関係づくり 子供たちの地域への関与を地域住民がサポートすることにより、より積極的な地域と学校の関係性をつくっていききたい。 ④魅力ある景観づくり ウォーカブルな通学路空間を実現し、子供たちの笑顔と共に花や緑等の導入によって季節を感じたり、明るさが増すような、魅力ある景観をつくっていききたい。 ⑤シビックプライドの醸成 一連の取組みの実施、情報発信を通して地域が協力しながらまちづくりに関わることでシビックプライドの醸成につなげていきたい。
活動を継続的に実施 していく上での課題	①継続的な費用の確保 取組みを重ね、発展していくにあたっての継続的な費用の確保が必要。 ②効果測定、検証サポート 取組みを継続し客観的なデータやエビデンスを蓄積するためのサポートが欲しい。 ③広報、PR 商店街やエリマネ団体等の組織でない個人レベルの取組みでの効果的な広報やPR体制を確保する必要がある。 ④各種支援体制 取組みに関連する行政手続きや方向性の確認、支援等のためのサポート体制が欲しい。 ⑤横のつながり、情報共有の場 取組みの継続に向けて、先行する団体等との意見交換や情報共有の場があれば同様の悩みを効率よく解決していけると思われる。